

障がい者のための就職情報誌

# クローバー



秋号

2007 AUTUMN

VOL. 13

首都圏版

クローバーインタビュー  
三菱電機ビルテクノサービス  
「世界障害者絵画展」

快適なライフスタイルを応援  
運転免許取得支援センター  
チャレンジドマーケット

人事担当者のアドバイスから学ぶ  
**就職活動サクセスガイド**

Close Up 全盲のミュージシャン

## 増田太郎さん

連載コラム  
「キーパーソンに聞く 後編」  
シティバンク銀行  
須田宏樹氏

カラー求人情報多数

東芝／モルガン・スタンレー証券／  
明治安田システム・テクノロジー／  
日本ヒューレット・パッカード 他

この秋一番の

# 最新求人情報発信



# 心のセンサーを磨いて、 すばらしい出会いを!

弱視であった視力を20歳で失う。しかしそれは、ミュージシャン“増田太郎”が開眼する序曲だった。のけぞってヴァイオリンを弾きながら歌う独特のスタイルで「講演ライブ」を中心に活動を展開し、世代を問わず多くのオーディエンスとの一体感を共有していく…。そんな増田太郎さんの魅力に迫る。

## Taro Masuda

◆ 全盲のミュージシャン ◆

# 増田太郎 さん



「ミュージシャンとして、通常のコンサート活動に加えて、「講演ライブ」という活動が大きな柱のひとつになっているということですが、これは具体的にはどのようなものなのでしょうか。」

「講演ライブ」は自治体や企業、または学校などを訪問して、僕がいままでに出会った人たちとのさまざまな体験談や印象的なエピソードを語りながら、そのプロセスにおいて生まれた歌や楽曲をリンクさせて、オーディエンスの方々楽しんでいただくというスタイルのものです。

そしてこの講演ライブを始めるようになってから、以前にも増してオーディエンスの世代が広がってきています。たとえば、自治体主催の芸術祭などにおじゃまして、「おばあちゃん、お母さん、お子さん」といった家族3代にわたった人たちに楽しんでいただいたり、あるいは「父の日に行われる授業参観日」に招かれて学校を訪問して、ライブ活動を行うこともあります。

その後、参加した多くの方々から当日の感想をメールでいただくのですが、皆さんのいろいろな思いが書かれていて、読むたびに本当にうれしくなっていますね（※視覚障がいをもつ増田さんは、音声読み上げソフトが入ったパソコンを使用しています）。

たとえばどのような「声」が届いているのか、具体的に紹介いただけますか。また講演ライブを通じて、増田さんが実感している手応えのようなものがあれば、ぜひ聞かせてください。

先程の父の日の授業参観を例にあげれば「帰宅してから家族で食卓を囲んでその話題で盛りあがった」とか、また「ヴァイオリンは縁のない楽器だと思っていたけれどすごく身近に感じた」という中学生がいたり、あるいは学校の先生から「生徒たちがとても真剣に聴き入っていた」というメールもいただいています。

そう、それと以前ヴァイオリンを弾いていた高校生の男の子から、「感情を込めて弾く」ということに共感・理解して何年かぶりに再びチャレンジしてみた」といったものもありました。とにかく、本当に「通感・熱い思い」が感じられて、感謝の気持ちでいっぱいになりますし、また僕にとっての一番の原動力になっています。

ライブでは二曲歌い終わるたびにたくさん拍手をいただくのですが、その拍手に表情を感じてるんですね。「ひとつひとつの笑顔、が心の中に浮かんでくるんです。これは非常に感動的なことであって、まさに参加していただいた方々との一体感を共有できた瞬間でもあります。」

## プロフィール

ますだ たろう Taro Masuda  
5歳よりヴァイオリンを始め、ピアノ、ギター、ヴォーカルをこなす。20歳で弱視であった視力を失うが、ヴァイオリンを弾きながら歌うという独自のスタイルで精力的に音楽活動を展開。通常のコンサートに加え、自治体や企業、学校などを対象とした「講演ライブ」で全国を訪問。

### 【主な活動】

- 1997年、NHK「みんなのうた」にて、楽曲「雲」が放送。
- 毎年クリスマスイブに放送されている、ニッポン放送「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」に2002年より出演。
- 2003年3月、北海道の高校生から届いた一通のメールをきっかけに、「別海高校歌声プロジェクト」に参加。
- 現在、ラジオ番組「増田太郎ミュージックシュタイン（栃木・茨城・和歌山・日本福祉放送）」放送中。
- ヴァイオリニストとして、森山直太郎さんの「手紙（さくらのカップリング曲）」や、より子さん、普天間かおりさんのレコーディング、奥井亜紀さんのライブなどにも参加。
- 著書にエッセイ「毎日が歌ってる（ずばる舎）」がある。



— 今後ミュージシャンとしての活動を続けていく中で、目標やトライしてみたいこと、また将来的な展望などを教えてください。

最近取り組んでいる活動として「楽曲提供」があります。これは僕の作った詞や曲を他のアーティストに歌ってもらおうというものです。まずは二つの目標としては、これをもっと続けていきたいですね。

二つ目は、欧米を中心に海外で演奏することです。本場の空気を肌で感じながら、現地のオーディエンスとのコミュニケーションを実現して行くことにすごく興味があります。

そして三つ目として考えているのが「社員研修での講演ライブ」の実現。音楽に限らず、すべての仕事は人となりがあって、僕は思うんです。だからこそ会社単位でなく、社会の二員としてのかかわり、というテーマでの講演ライブを社員研修の環として実現できれば、お互いにごく有意義な時間が過ごせる気がします。とにかく多くの人たちと交わりながら、音楽やトークを通して喜びと感動をともに味わいたい。そして生涯現役としてミュージシャンを続けていきたい。これが究極の目標ですね。

— これから就職活動にチャレンジし、社会人としての飛躍を目指すクローバーの読者へメッセージとアドバイスをお願いします。

人生は、さまざまな局面で選択を迫られたり、思いがけないアクシデントに見舞われることもあると思います。そんな時は、目の前の道が二つに分かれ、そのどちらを進むかによって、人生が決まってしまう、と思っていました。「見える世界」と「見えない世界」というように、でも、そんなことはないですね。

どちらの道を進んでも、その先には必ず「出会い」がある。だから、視力を失った時にも、絶望感はありませんでした。これは正直な気持ちです。たとえ、視力をなくしたとしても、「出会い」は決してなくならないと信じていたから。実際、いま音楽の仕事を共にしているのは、見えなくなつてから出会った人たちばかりです。

人それぞれに進んでいく道は何通りもあると思いますが、どの道を選択してもその先には必ず出会いがあります。そして出会いがある限り、未来や可能性はどんどん広がっていくはず。会社との出会いを求めている読者の皆さんも、それを信じて「いまの自分にできること」を探しながら前に進んでほしいですね。

## 誰もがもっている心のセンサー

僕はこれまでに、数々のすばらしい出会いを経験してきました。それは、常に、「心のセンサー」を磨く努力をしてきたからだと思っています。心のセンサーを磨いていけば、道の途中で風や匂いを感じ取ったり、自分が望んでいた出会いも生まれます。そして僕からのこのメッセージが、皆さんのセンサーを刺激するために役立てば、幸いです。

### 増田太郎 オフィシャル・ホームページ

ライブ情報、エッセイ、インターネット・ラジオ、マネージャーの写メール日記、楽曲の試聴などなど、豊富なコンテンツで増田太郎をありとあらゆる角度からお届け！ライブ予約、CDやエッセイの通信販売、ライブや出演の情報をメールで受け取る「情報メール登録」もこちらから！

※視覚障がい者用音声ブラウザにも対応。

パソコン用アドレス <http://tarowave.com/>

携帯用アドレス <http://tarowave.com/k/>